

## 今月の目標

生活指導：身のまわりの整理整頓をしましょう。

給食指導：1年間の反省をしましょう。

保健指導：健康生活を反省しよう。



### ◆小中一貫教育について◆

副校長 小島 由子

北区の義務教育は学校ファミリーを基盤として、様々な課題を解決するため小中一貫教育を推進しています。義務教育9年間を、滑らかに接続させることで、小中学校間のいわゆる中1ギャップから生じる学習意欲の低下や不登校問題、子どもの発達の早期化等、今日的な児童生徒指導上の課題の解決を図ります。サブファミリー（SF）といわれる中学校の学区を単位に、私たちの神谷中SFは令和3年4月2日に全教員が神谷中に集まり、取組をスタートさせました。神谷小・稲田小・神谷中の教員による乗り入れ授業を行ったり、小学生対象に中学校の教員による授業を計画したりするなど、小中学校の教職員の人的交流を促進して「学力観」「指導感」等の共有をはかり、授業改善の促進と学力向上を図っています。また、PTAの皆さまにもご協力いただいた5年生の農業体験、4年生の防災・減災教育、高学年の神谷中運動会へ参加などの児童・生徒、小中学校教員、地域の人との交流活動を通して、心の教育の推進や体験活動の充実を図り、自他を大切に作る人間関係力を豊かにすることを目指しています。

都の北学園の開校を約2年後に控え、小中一貫教育を通して、児童・生徒が9年間を見通した学習への取組が可能となるように、義務教育9年間の一貫教育により、児童・生徒一人ひとりが個性や能力を伸ばし、「生きる力」を育めるように、稲田小・神谷小・神谷中は取り組んでいます。

### ◆外国語活動について◆

外国語主任 田代 真依子

令和3年度、北区小中一貫カリキュラムの外国語版が新しく作られました。これは、小中（主に小学校高学年から中学1年）を円滑に接続するため、教員が授業の計画を立てる上で留意すべきことがまとめられたカリキュラムです。このカリキュラムには小学1年生から中学3年生までの全ての単元がまとめられており、小中だけでなく、前後の学年との関係も明示されています。

このカリキュラムからは、外国語も算数などの他教科と同じように、縦のつながりがとても深いことがわかります。例えば、1年生で“What’s this?”、2年生で“What color is this?”、3年生で“What color do you like?”というように、似たような表現をステップアップさせて習得します。単語の量も徐々に増やし、語彙を定着させていきます。学齢に合わせたレベルの表現や単語を毎年繰り返しインプット、アウトプットすることで、聴く力と表現する力を着実に付けていくことができます。

中学校までの外国語・英語の学習の最終目標は「コミュニケーションを図る力の育成」ですが、その素地となる資質・能力を養うため、また、中学での英語の学習に抵抗なく取り組んでいけるよう、本校でも外国語学習を工夫していきます。